

「新世代奉仕グループセミナー報告」



新世代奉仕委員会
ライラ小委員会
委員長 池田郁太郎

RIが提唱するRYLA（ライラ・青少年指導者養成プログラム）とは「将来の指導者になりうる若者に対して、その能力をよりいっそう高めるための効果的な研修機会を与える」ことを目的に実施されます。それにより、参加者が社会の中で同世代の若者に対して指導的な役割を果たすことや、ひいては将来、地域や社会においても指導的な能力を発揮して貰うことを期待しています。これらを具現化するためには、青少年が担うことになる来たるべき社会に対して我々ロータリアンが大いなる関心を抱いているということを彼らに知ってもらうことが重要であり、RYLAはその目的を実現するための大いなる好機であるといえます。

今年度は第4ブロックの協力を得て2014年6月7日（土）～8日（日）の一泊2日で西川町弓張平地内での実施を予定しております。詳しい要項が決まり次第、速やかに各クラブへご連絡を申しあげますので、参加者の推薦のほどよろしくお願い致します。

「新世代奉仕グループセミナー」



新世代奉仕委員会
インターアクト小委員会
委員長 高橋 章

インターアクトは素晴らしい活動を行っておりますことを、皆様にお伝えさせて頂きました。

トルコ共和国表敬訪問では、次世代の山形とトルコ共和国の友好の架け橋という大役を見事に果たしてくれました。また、JICA訪問では、JICAのHPに掲載されております通り、「開発途上国の子供たちの衛生面の現状を知り、何かしたいと思った。」「エイズ問題や教育問題を解決するために、一人ひとりが関心を持ち、目を向けていかなければならないと思った。」など、素晴らしい感想を述べております。

地区の活動以外でも、地元の清掃活動や、震災ボランティア活動など、素晴らしい活躍を見せてくれていることもご報告申しあげました。

ご存じの方も多いと思いますが、トルコ共和国大使館表敬訪問と、九里学園のIAの震災ボランティアは山形新聞に取り上げて頂いております。

生徒会長に決まった生徒もおおり、リーダーシッププログラムの成果と嬉しく思っています。

「ローターアクト小委員会報告」



新世代奉仕委員会
ローターアクト小委員会
委員長 橋本 重幸

1. RA地区年次大会について
 - 来年4月12～13日、鶴岡で開催されます。
2. RAC会長・幹事会への出席について
 - 7/28に天童で行われ、前年度決算報告と今年度の活動計画・予算を審議。
3. RACとRCの相互交流推進について
 - 各ブロックのIM、各RC懇親会や例会などへ呼んで戴ければと思います。
4. RACを新設可能なクラブへの支援について
 - 第3ブロックの天童・東根地区への新設のご協力をお願いしております。
5. 山形RACへの支援について
 - 少なくとも前年度に解散（終結）致しました。
6. ライラ研修会への参加について
 - 同研修会はRAの活動計画に入っております。
7. ローターアクトクラブについて
 - ①会員数について（2013.7.1）

米沢	RAC	6名
東北文教大	RAC	5名
鶴岡	RAC	18名
南陽東	RAC	17名
酒田	RAC	6名
計		52名
 - ②RA地区役員について
 - 地区RA代表・・・丸山純（鶴岡RAC）、幹事・・・中村明博、会計・・・阿部新吾
 - ③RA地区ターゲット
 - 「朋友」・（for you）仲間・友達、あなたの為
 - ④その他
 - アジア第1ゾーン代表者会議・・・今年度9/15・新潟で開催、次年度9月頃に「山形」で開催、義務出席者・オブザーバー・スタッフ計75名位

RACは「未来への投資」と考えてください。

演題 「地球市民を育てる」 講師：ジャンチブ・ガルバドラッハさん(新モンゴル高等学校 理事長)

現在、世界人口は70億人を超え、ヒト・モノ・カネの流れが異常に増えた。そしてIT革命の時代となっている。例えば、モンゴルの草原で生まれ、日本で学習し、アメリカに就職することもある。

また温暖化している地球で、宇宙船地球号はキャパシティ・オーバーになり、環境破壊、生物多様性の劣化が急速に増え、気候変動・砂漠化、災害などの環境破壊が起こっている。

また国際社会の安全さが崩れている、地域によって戦闘が起きているところが多く、テロの脅威は増している。そして多くの命が失われている。これからは、世界平和維持活動が必要である。

20世紀は教育の世紀だった。学校現場における課題として大学進学目的になり、入試対策中心の場となり、個性のある人間が育たない。生きる力や自立精神が弱い。学校は他力本願で自分の考えを持たない、夢も情熱もない。

そこで、何をやるべきか？

私たち、新モンゴル校は何。学校の最大の成果は卒業生で、10期生1,200名の卒業生、390名が海外留学している。

自己紹介をすると、渡日して留学生活。1年間国費奨学金の後、山形大学では新聞配達、西濃運輸、居酒屋で1年間働き学習した。そして米山奨学生となり、その上で学校を創る夢が生まれた。奨学金月15万円はとても大切なお金だった。

1998年モンゴルを担っていく人材育成をするという卓話を行い、東北大学で高校のカリキュラム開発の研究をし、2000年10月5日に「柱一本の会」の協力により新モンゴル高校が誕生。そのモデルは山形西高。

新モンゴル高等学校の教育理念は将来モンゴル国を背負っていく人材の育成、学校は夢を見つけ、夢を語り、夢を追いかける実践の場。そのために多くの先輩たちの話を聞くこと、彼らから勇気と生き方、夢を追う意義を学ぶ。学校は情熱を燃やすところ、仲間に刺激され、仲間に刺激を与える環境を整える。大自然の中で人格を磨く、電気、電話、水道がない林間学校で伝統生活を学び、乳しぼり、農作業などの遊牧民の作業により生きる力を育む。

先輩や後輩、卒業生たちの生きた絆、卒業生は母校を誇りに思い、母校は卒業生によって名をはせる。

地球市民育成のための提言として、国民国家のあり方ほもう一度見つめなおす必要があるのではないか。それぞれの違いを認める寛容で開かれた心を育てること。異文化コミュニケーションの力を育むこと。一つの国家、コミュニティにとらわれることなく、一つの地球の仲間に直面する共通な課題に取り組む精神をもつ地球市民を育てる。

地球は一つの国になる時代はそう遠くない。

能に溺れるエリートではなく、情があふれるリーダーを目指し、青少年に「愛する心」を育てる。

最後に、このようにモンゴル初の高校が誕生し、地球市民を育成する取り組みにチャレンジできているのは皆さんのお陰です。

ガバナー月信 副編集長 須藤 智

